

# 事例研究報告

**伝えたい！伝わった！  
特別支援学校小学部児童の  
絵カードを用いたコミュニケーション指導**

# 児童・生徒の実態

## ・小学部児童（自閉症）

受容：具体物とカードのスケジュールを活用。2個提示。  
日常生活での簡単な言語指示が理解できる。  
（「靴履く」、「座る」、「～行くよ」等）

表出：要求時、手を合わせるポーズで伝える。  
遊びの要求や好きな給食のメニューではクレーン  
動作や指さしが出やすい。

好きな物：お菓子、白ご飯、DVD、ボール、ウルトラマン、  
戦隊シリーズ

## 保護者の願い

- ・言葉以外の方法で意思表示できるように  
なってほしい。

## 教員の願い

- ・要求が伝わらない場合などにひっかく等の行  
動が出る(困っていること)。  
→自分の要求を相手に伝えられる経験を増や  
し、誰にでも伝わる方法で、より良いコミュニ  
ケーションを担任教員以外にもとれるよう  
になってほしい。

# Beforeの取り組み

—給食場面にて—

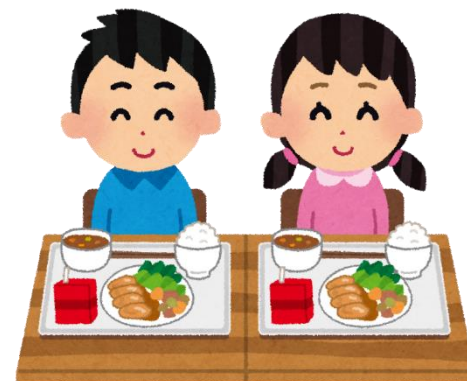
【Step 1】 9/3(月)～7(金)  
おかわりが欲しい時、食器を教員に渡す。

【Step 2】 9/10(月)～ ★1回目コンサル  
「ください」カード→実物から選ぶ。

【Step 3】  
「ください」カード→食器のカードから選ぶ。

【Step 4】  
食器カードを「ください」カードの横に貼って渡す。

【Step 5】  
食器カード+「ください」カードを渡す。



## ◎コミュニケーションの指導について

- ・給食で偏食指導とコミュニケーション指導の両方は難しい。給食場面は楽しい雰囲気にする。
- ・給食場面で指導することをやめ、対面課題など別の場面で行う。→PECS(絵カード交換式コミュニケーションシステム)を実施してはどうか？

# 助言を受けての見直し

## ◎コミュニケーションの指導について

### 【Before】

- ①給食場面での指導(40分程度)
- ②献立によって、好き嫌いがある。



### 【After】

- ①対面課題でPECSの指導。(2～3分)
- ②保護者と連絡帳でやりとりを行い、好きなお菓子を好子として使用する。

# 指導の手続き

【フェイズⅠ】 10/11～11/9

絵カードを取り、コミュニケーションパートナー（CP）の教員に手を差し出し、手渡すことができる。

達成基準→80%以上自立が2日連続



【フェイズⅡ step1】 11/16～12/3

絵カードをブックから外して、CPに手渡すことができる。

達成基準→100%自立が3日連続×CP2名

※確実な習得のために、フェイズⅡから達成基準を変更する。

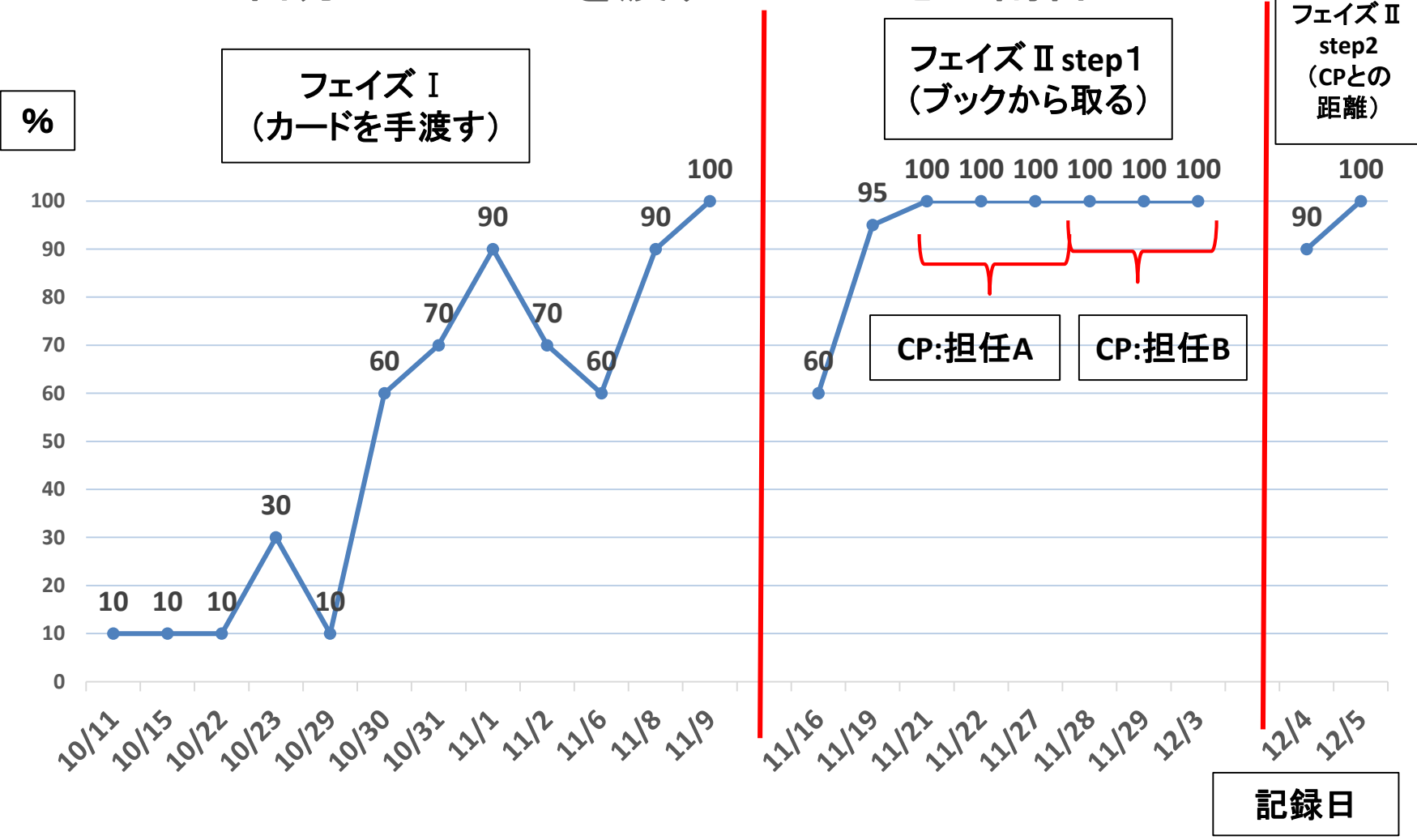
【フェイズⅡ step2】 12/4～12/5

絵カードをブックから外して、CPのところに移動して手渡すことができる。

達成基準→100%自立が3日連続×CP2名

# 指導の結果

## 自分からカードを渡すことができた割合





# ここが成功のポイント

- 対面課題でPECSの指導を行ったことで  
短時間で、連続して、好きなもので、取り組むことができ、  
習得するまでのスピードUPができた。
- 連絡帳で最近の好きなもの(おかし)を保護者から聞き、  
好子として取り入れた。



- 給食場面と違い、「好きなおかしがもらえた！」  
「相手に伝わった！」が分かりやすく実感できる。  
→ PECSの学習時間を楽しみにしている様子で、笑顔  
も見られた。

## アドバイザーからの助言

2回目のコンサル

### ◎PECSの指導について

- ・マニュアルでは2人体制だけど...  
児童の実態を見て1人体制で指導する。
- ・プロンプトを出すタイミング(秒数)を統一する。
- ・PECSのブックは児童にとって伝えるツール。  
ブックは常に児童が使える位置に置いておく。
- ・課題のPECS→日常生活で使えるものにする。

## ～その後の様子～

- ブックがどこにあっても、先生がどこにいてもカードを手渡せるようになった。
- おもちゃやDVDのリモコンの要求など、普段の生活でも伝えられる場面が増えた。
- 担任以外の人に渡せるようになった。  
「やった、伝わった！」→ 本人も嬉しい。  
「伝えてくれた！分かった！」→ 教員も嬉しい。

